

研究会員の声 14

これらは責任のとれない立場からの生の声を記録したものですので、誤解などあるかも知れません。それを承知でお読みください。

○ 大津の中学「いじめ」事件が今問題となっているが、学校を取り巻く社会病理構造が明らかとなってきた。加害者は「遊び」、「トレーニング」と強弁しているが、継続性・力関係など考えると、「いじめ」そのものである。このとき、教師は見て見ぬふりしか対応出来なかった。当事者能力の欠如である。それをいいことに、いじめはエスカレートする。これも被害者の父親が収まらない人であり、警察に3度門前払いされてもくじけずに訴訟を起こし、訴え続けたからこそ、問題を世間が知る所となり、より納得がいく形での処理がなされていくと思われる。このとき、並の親であったならば、”自殺”として闇に葬られてしまったことであろう。この加害者を人血造船に当てはめてみると、”正当に経営権を取得した”ということであろうが、手口中身や過去の人血造船の”乗っ取り成果”を見てみると、合法の仮面をかぶった詐欺事業の収穫であることが分かる。被害者が”並の親”でないことも共通している。

○ もう少し小さいニュース、マジコン（ゲームソフトの違法ダウンロードチップ）を販売していた日本橋店主が捕まった。当人にとっては儲かる、在庫を処分したい、に釣られて部品をばらして売って捕まった。捕まるリスクと売り上げとの兼ね合いで、どのような戦法・戦略を取るか決める。また、相手がどこまでなら訴訟に出る（捕まる）か、考える。人血造船のビジネスモデルでは、中小企業ならまず訴訟にまで到らない。訴訟になったところで、弁護士船団パワーで圧倒できる。弱者はあくまでも弱い。相手の弱みを見抜いて、落とし穴に導く。これが人血造船のビジネスモデルであった。いままでそれで通ってきた。やばい橋も渡らなければ皆を食わせることはできない。企業倫理など何処吹く風である。人血造船経営陣にはそれしかビジネスモデルが浮かばないのだから、会社全体としての能力（社力）の限界を表しているのであろう。世の中、食っていくのはたやすいことではなく、蓄積してきたビジネスモデルにしたがって食っていくのが一番手堅い。しかしながら、私財を投じて我が国独自の技術を手塩にかけて育ててきた旧株主・社員にとって人血造船に我が子を半殺しされたも同然である。それにも増して、技術の分からない盗人を断罪することが、我が国の将来の発展には必要不可欠である。

○ 人血造船さんは訴訟が気になると見えて、毎日本ページを見ている。とくに、元・経済犯を専門とする特捜部長、元・仙台高検等検事長を務められた大塚清明氏が弁護団長の名に上がったことについては非常に気になると見えて、人血造船側弁護士がご本人に直接電話を掛けてきた。

○ 日立造船乗っ取り詐欺被害者の会の連絡先が決まった.

hz-higaisya@hotmail.co.jp

である. ご意見などはこちらへいただければと思います.